

地域連携NEWS

瀏野辺総合病院
メディカルサポートセンター医療連携課



✿ 新年のご挨拶 ✿

新年明けましておめでとうございます。

一昨年の新型コロナウイルス感染症第5波は地域医療を逼迫し、昨年も新型コロナウイルス感染症第6波、7波で多大な影響を及ぼしました。現在は第8波の真ただ中で感染症との戦いは今後も続き、新しい生活様式への転換も余儀なくされています。まだまだ感染対策が第一ですが、今後は医療の機能分化やかかりつけ機能の推進が、さらに推し進められ、特に高齢者急病対策の議論を進めなければなりません。

また、今年は病院にとって課題の働き方改革への対応もあり、実行に向け対策が練られていくことになります。

単独で努力することなく、地域一丸となって取り組んでいく必要があります、皆様方の一層のお力添えをいただきたいと思います。本年もよろしくお願い致します。



医療法人社団 相和会
理事長 土屋 敦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナの第八波で暮れた昨年でしたが、新年に入って皆様は如何お過ごしでしょうか？さすがに、感染が始まって4年目ともなると、慌てず、騒がず、淡々と受け入れている方も多いのではないかと思います。

オーストラリアで猛威をふるったインフルエンザも、少しずつ蔓延してきているようで、コロナ、インフル同時に感染する患者も出てきています。しかし、海外では、アメリカでもヨーロッパでも既にマスク着用は義務ではなく、日本人が海外に渡航した時にマスクをしていると、「お前はコロナに感染しているので、マスクをしているのか？」としばしば尋ねられるそうです。日本政府のコロナ対策も、そろそろ転換期に来ているのかもしれないね。皆様も体調には十分気をつけて下さい。本年も宜しくお願い致します。



瀏野辺総合病院
病院長 世良田 和幸

謹んで新春をお祝い申し上げます。

昨年は引き続きコロナに振り回された1年となりました。当院でも2度に渡り院内クラスターが発生し、そのたびに診療の縮小を余儀なくされました。また、3年に渡るコロナ禍において、新たな患者動向（外来受診頻度の減少など）も固定しつつあると思われます。医療現場における負担はなお大きなものですが、この変化にいち早く適応する事が患者サービス、引いては医院、病院の発展につながるものと考えます。

瀏野辺総合病院もこの困難を挺子に、皆様方との連携をより強固にして利用しやすく求められる病院に変わっていきたくて考えています。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



瀏野辺総合病院
メディカルサポートセンター長
副病院長 小池 幸宏

